

この一枚に、すべてが詰まっている。

第二夜は、この視界のなかで、千年ぶんの話をします。

742段の石段の先に、天狗の山があります。足元の岩は、恐竜がいた時代の火山の名残。大きな岩は、天狗が力ずくで押し開いたと伝わります。山の下野原では、1300年前、天皇の妃と皇太弟が恋の歌を交わしました。山のとっぺんからは、江戸時代、旗をふって大阪の米の値段を知らせていました。毎日のぼっている人も、初詣にしか行かない人も、たぶん知らない話ばかりです。そして今、あの舞台が、146年ぶりの修復を待っています。三夜にわけて、太郎坊さんの謎をとくにいきます。お子さまと一緒にどうぞ。

第一夜 / 10月18日(日)

その山には、何があるのか

742段の先で、待っているモノの話

- ◆ 「太郎坊」って、だれの名前？ ほんとうに天狗の長男坊なの？
- ◆ 日本の天狗ランキング表に、太郎坊さんの名前がない。なぜ？
- ◆ 足元の岩は、恐竜がいた時代の火山の跡だった？
- ◆ 赤神山は、むかし“湖に浮かぶ島”だったかもしれない
- ◆ のぼってはいけなかった山だった時代がある —— 「不上石」のなぜ
- ◆ あの大きな岩は、だれが押し開いたのか
- ◆ 742段のいちばん上で、待っているモノの正体

第二夜 / 11月8日(日)

その山からは、何が見えるのか

あの平野で、日本が二つに分かれた話

- ◆ 初夏の朝、田んぼに“もうひとつの太郎坊”が映る。見られるのは一瞬だけ
- ◆ 山の下野原で、天皇の妃と皇太弟が恋の歌を交わした日がある
- ◆ その四年後、兄と弟はなぜ戦うことになったのか
- ◆ 鏡神社のご祭神は新羅の王子、聖徳太子の仏教は百済から伝来した。
- ◆ 鏡の里で元服した少年は、なぜこの山の岩に腰かけたのか
- ◆ 元服した池と、平家が滅んだ場所は、歩いて7分の距離だった
- ◆ この山のすぐ下に、お殿様の館があった？
- ◆ この山から見える範囲だけで、これだけのドラマが起きている

第三夜 / 11月28日(土)

その山の、これまでとこれから

この山を千年つないできた天狗たちの話

- ◆ 山のとっぺんは、江戸時代の“通信基地”だった？ 大阪から七分で情報が届く方法
- ◆ 分けられたはずの神さまと仏さまが、いまも同じ炎を囲んでいる —— お火焚大祭
- ◆ なぜ、千本を超える鳥居が立ったのか
- ◆ 元日の午前1時に、汽車が走っていた
- ◆ あの舞台、どうやって崖に架けたの？ —— 宮大工の手のうち
- ◆ 釘はどんどん使う。でも金具は使わない。なぜ？
- ◆ 146年たったいま、あの床の下で何が起きているのか
- ◆ つぎに手を入れるのは、三十年後。そのとき、誰がここに立っている？



前川真司（まえかわ しんじ）

元東近江市地域おこし協力隊。滋賀県立八日市南高校非常勤講師。東近江市の花「紫草（むらさき）」の栽培・普及啓発活動と、「近江の歴史の魅力を語る」歴史講談活動を両輪に活動中。対面講座「近江の歴史を学ぶ会」、講談シリーズ「近江百ものがたり」、オンライン歴史ラウンジ「近江にみちびかれて」を案内するほか、滋賀報知新聞にて連載中の「天狗たちの大普請」を執筆中。

お申し込み：予約優先・当日受付可

お問い合わせ・予約先：080-3204-0317（太郎坊八日市実行委員会）

※どの回からでもお聞きいただけます。

※開場は17：00です。